令和７年度　学校関係者評価実施報告書

学校番号	８	学 校 名	静岡県立沼津特別支援学校伊豆田方分校	記 載 者	高木　亮

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評　価	意見
安全	**人権に配慮した指導の徹底**	・全ての職員や生徒が、互いの良さや苦手を認め、寄り添う姿勢や称賛の言葉を用いて関わっている。 ・生徒自身や保護者が、人権が尊重されていると感じている。	C	B	・学校という場所は、職員や生徒が互いに寄り添う姿勢は、この学校の強みである。 ・次年度は、職員の専門性向上と連動させた研修の充実により、生徒の思いに寄り添い、情動的指導ではなく発達段階や個々の良さと課題を踏まえた適切な関わりや支援の徹底を期待する。
安全	誰もが安心して通える体制整備と安全教育	・校内の情報や物品が、生徒の主体的な行動や気持ちを引き出せるように整理されている。 ・職員・生徒・保護が危機管理マニュアルに沿った行動をとることができる。	B	B	・校内環境の整理は、限られたスペースや予算の中で着実に進んでおり、日常的な環境作りが安心安全につながっている。 ・様々な有事に備えた危機管理体制が構築されている。 ・一方で、危機管理マニュアルに職員や保護者が不安を感じている部分は、形式的な整備に留まらず、実践的訓練や見直しを重ねることで、安全安心の向上につなげてほしい。
専門	生徒との対話を通した教育的ニーズの把握とそれに応じた教育活動の実践	・生徒自身が自分の得意や苦手を知り、生活の中で活かしている。 ・作業学習をはじめとする学習場面において、生徒が自分の得意を活かし、主体となって活躍している。	B	A	・職員が、生徒一人一人に本気で向き合い、対話を通して、得意を活かす教育を実践している。 ・タブレットやグループワークの活用により自己表出の機会が増え、そのことにより生徒が意欲的に活動している様子が伺える。 ・今後は、生徒が自己理解をして「少し頑張ればできる」目標設定の質をさらに高め、自己肯定感や自己効力感を積み重ねられる指導の深化に期待する。
専門	**個に応じた適切な進路決定の実現**	・生徒が、勤労観や職業適性について理解を進めている。 ・保護者が、進路選択や職場実習の価値を重視し、協働している。	A	A	・３年間を通して、生徒自身の思いを尊重しながら職場実習やキャリアパスポートの活用等の進路指導の体系化を図ることで、生徒の自己理解が進み、保護者の受容と前向きな姿勢も醸成され、進路決定に結び付けていることは評価できる。 ・次年度は、整理された仕組みをより確実な実践へと高め、個々の生徒や保護者にとって将来をイメージも持って、より納得

					感のある進路実現につなげていくことを期待する。
連携	**関係諸機関とのつながりを大切にした切れ目のない支援と指導**	・職員が、生徒や保護者のニーズを把握し、必要に応じて面談や関係者会議を実施している。 ・保護者が、生活安定や地域安全の価値を重視し、学校と連携している。	A	A	・関係者会議や面談を通じた支援体制が機能しており、保護者からも適切な対応であったとの評価が得られ、チームでの課題解決の姿勢が見られる点は評価できる。 ・今後は、情報共有の迅速化と効率化を進め、さらに質の高い連携体制の構築を図っていくとよい。
連携	生徒の自立と輝きに向けた共生・共育の充実	・生徒が、田方農業高校との共同学習や行事をはじめ、地域での交流学習に主体的に参加している。 ・学校運営協議会と教職員とが、相互に連動している。	A	A	・学校は、地域と向き合い、共生共育を言葉だけでなく行動として実践をしている。それだけに生徒が卒業後も、地域と繋がり続ける学校であってほしい。 ・田方農業高校、地域等と連携を積極的にしていることを、地域へさらに発信するため、情報発信の工夫が必要である。 ・学校運営協議会との協働も進んでおり、今後は教職員や生徒の参画を促進することで、「共生・共育」の質をより高め、地域と共にある学校づくりを一層深化させたい。
チーム	**チームとしてやりがいのある職場の実現**	・教職員が、お互いを認め合い、チームとしての成長を実感している。 ・職員が、本校事務室からの連絡を適時に確認し、連携している。	B	B	・全職員がチームとしての成長を実感しているという結果は大きな成果である。 ・教職員がやりがいをもって業務に当たることは、生徒の成長につながるものと考えます。心理的安全性を土台とした良好な関係づくりを最優先に、チームとしてさらに成長していくことを期待する。 ・事務室との連携については保護者からは見えにくい部分ではあるがスムーズに業務が進められることで保護者の安心にもつながる。